

異文化融合が図れる建築ソリューション
-人々を緩やかに繋ぎ隔てる国境建築の設計-
Architectural solutions for cross-cultural integration
-Border architecture design that gently connects people-

○小山田駿志¹, 小林直明²

*Shunji Oyamada¹, Naoaki Kobayashi²

Abstract: Today there is a time when there is a society that is inclined to nationalism from the viewpoint of the global society. For example, the construction of the US-Mexico border wall, the withdrawal of the UK from the EU, South Korea's anti-Japan movement, Taiwan's demonstration against China, and the Kashmir conflict. For political reasons such as, political conflict is expanding. As conflicts between countries progress, stress between countries becomes serious and is considered a problem. There is a fact that the relationship beyond nationality has deteriorated due to national circumstances. People along the border are quickly damaged by friction between nations. Border security has been strengthened, but the relationship between people should not be broken. By designing a new buffer architecture rather than a boundary wall, you will be gently connected, forming a connection and mutual understanding.

1. はじめに

現在,グローバルな社会の考え方から,自国第一主義に傾いた社会も散見される時代になってきている,例えばアメリカとメキシコ間の国境の壁を建設する政策やイギリスのEU離脱,韓国の反日運動,台湾の中国へ対するデモ,カシミールをめぐる紛争など,政治的理由からますます国同士の隔たりが出来つつある,

国同士の対立が進んでいくにつれて国同士のストレスが深刻化し問題視される.それゆえ国家の事情によって国籍を超えた関係が悪化してしまっているという事実がある.いち早く国同士の摩擦による被害を受けるのは国境沿いの人々である.国境の警備が強化されていく中,人と人の関わりさえも区切られるのではなく,国境の壁ではない新しく Buffer となる建築を設計することによって緩やかに繋ぎ隔て,人々のつながりと相互理解を形成できるのではないか.

2. 計画背景

2.1 国境沿いの環境

現在,全世界で自国第一主義に傾いた国政を行っている国が見受けられる.

特に 2017 年アメリカの大統領にドナルド・トランプが就任してから,アメリカとメキシコの国境は注目を浴びた.大統領は就任後公約として発表した「100日プラン」の不法移民を根絶するアクションに「メキシコとの国境沿いに壁を建設し,その建築費用をメキシコに負担させる」という記述がある通り,トランプ大統領はメキシコ国境に壁を建設するための大統領令を出している.

トランプ大統領は最初にメキシコとの国境である全長 1951 マイル(約 3141km)すべてに壁を建設することだったが,山などの「移民が侵入するのが困難な場所」を除く国境の約半分に壁を設置するとコメントしている.

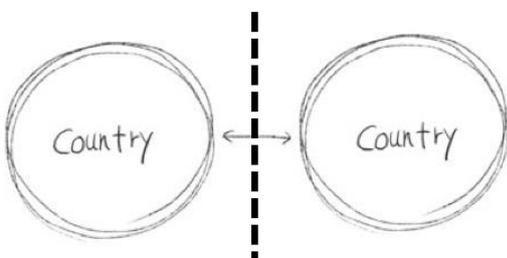


Figure1. アメリカとメキシコの国境



Figure2. アメリカとメキシコの国境

1 : 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.
 2 : 日大理工・教授・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

2.2 急速な技術発展

近年,IT や技術が目まぐるしい速度で発展している. 例に上げると,2007年 apple 社の発表した iPhone の登場により,情報を世界同時に共有できるパラダイムシフトが生じた.ローマ法王の就任式(左 2005年,右 2013年)の聴衆の写真である (Figure3) .



Figure3. iPhone 登場によるパラダイムシフト [1]

スマートフォンの普及により,時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想,社会全体の価値観などが国境, 文化を超えて革命的にもしくは劇的に変化したのである.

私達の生活はたった一つの革新技术によって一転する可能性がある.では,目まぐるしい速度で発展を遂げ身の回りのものが変化していくこの世の中で,時代が変わっても変わらないものは異人種と異文化の隔たりだと私は考えている.

3. 基本計画

3.1 人々を柔らかくに繋ぎ隔てる Buffer 建築

計画敷地として,アメリカとメキシコの国境を選定する,都市に挟まれた国境上に設計するとし,プロトタイプとして計画し, 詳しい座標は指定しない.

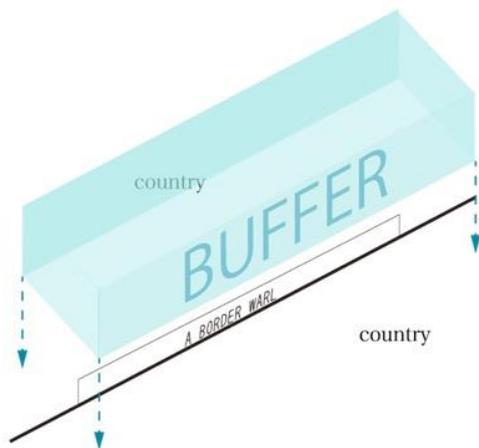


Figure4. 国境を緩やかに繋ぎ隔てる Buffer 建築

国境沿いの払拭できないイメージ (ステレオタイプ: Figure5) を解消すると共に,両国の文化を相互理解する目的,最新技術による新しい技術革新の目的として,異文化交流施設×共同技術開発センターの設置を基本計画とする (Figure4) .



Figure5. 国境に存在するステレオタイプ

3.2 建築計画

建築を利用する対象の人は子供を対象とした文化交流施設を設置する. 異国間の交流促進していくことに対して,子供の利用が最適だと判断した.子どもたちにとって国籍は大きな問題ではない.

国境を超えた相互理解を促すことに対して,社会的排除や宗教問題などが強く干渉しない.また,革新的技術の誕生には国境は無いことから, 両国での得意分野を共用する共同技術開発センターを計画する. 若い年齢時から最先端技術に対する関心を根付かせる事ができる.子どもたちには必ず親が同伴する.文化交流施設を介して,多世代に渡る交流に期待する.

異文化交流施設×共同技術開発センター

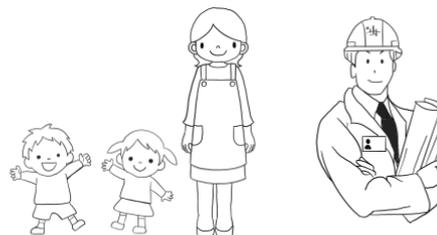


Figure6. 異文化交流施設×共同技術開発センター

3.3 構造・施工計画

既存の国境の壁がある場合は手を加え,構造壁として利用する.しかし計画施設内には国境は存在しない. また,両国の現地素材の利用や,現地のコンストラクターで共同建設することが, 仕事を生み出し不法移民を減らすことを期待する.

3.4 運用スキーム

ブロックチェーンを利用した現地独自の通貨を発行し,施設内の利用を可能とする.世界のスマートフォン普及率の割合から考え,全てを電子決済可能と判断し,スマート決済とする.国境周辺の施設は独自通貨の使用を可能とさせる事によって,金融変動の無い世界共通通貨として新しい価値観を提供する.

4.参考文献

[1] cult of Mac SEPTEMBER 21, 2019